

## 茨城県ケアラー実態調査結果の概要

1. 調査目的 ケアラーと支援機関双方の課題やニーズを把握し、必要な支援策を検討するために本調査を実施。
2. 実施期間 令和7年7月18日～8月31日
3. 調査対象 以下のとおり

### (1) 当事者

対 象	対象数	調査方法
高齢者のケアラー (3)のイ・エの利用者)	1,412 人	WEB アンケート調査 ※支援機関の利用者へ周知、協力を依頼
障害者のケアラー (3)のウの利用者)	1,488 人	WEB アンケート調査 ※支援機関の利用者へ周知、協力を依頼
ダブルケアを行うケアラー (保育施設を利用している保育園児等の保護者：約 81,000 人・地域子育て支援拠点の利用者：273 力所)	81,273 人	WEB アンケート調査 ※保育施設、地域子育て拠点の利用者へ周知、協力を依頼

### (2) ケアラー当事者団体

対 象	対象数	調査方法
家族の会等	16 力所	WEB アンケート調査 ※団体へメール等による依頼

### (3) 支援機関

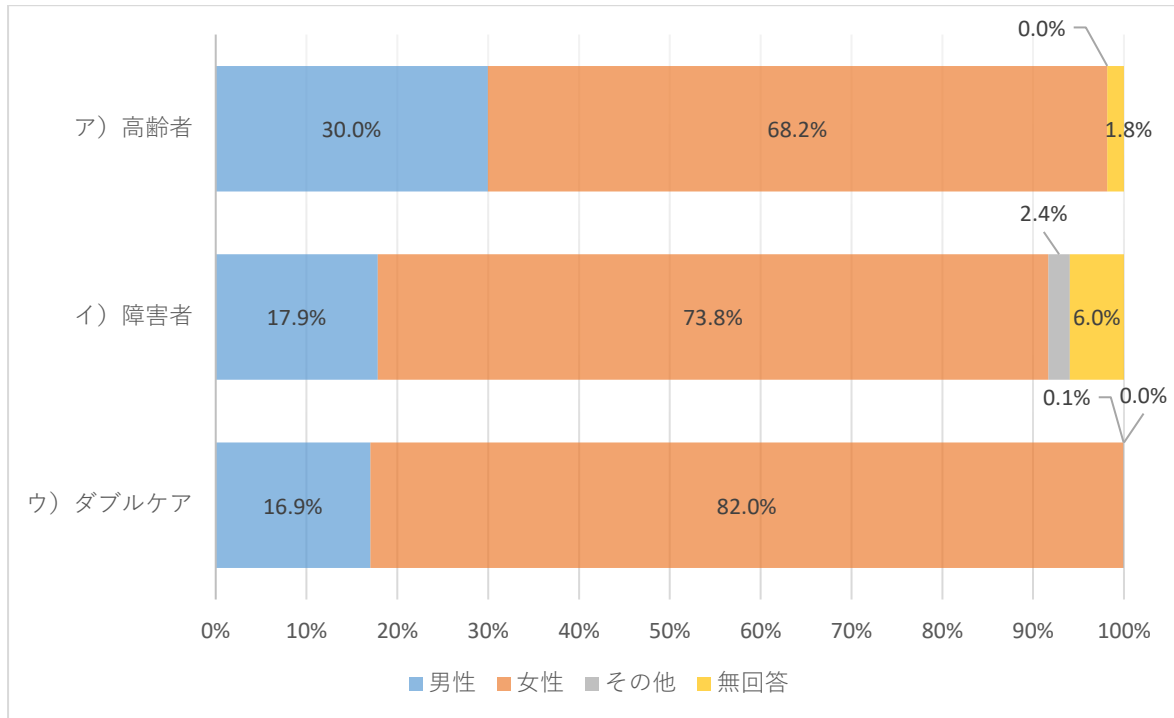
対 象	対象数	調査方法
ア 地域包括支援センター	94 力所	WEB アンケート調査 ※支援機関へメール等による依頼
イ 障害者相談支援事業所	372 力所	
ウ 民生委員児童委員協議会	141 力所	
エ 居宅介護支援事業所	848 力所	

# 1. ケアラー当事者を対象としたケアラー実態調査(高齢者・障害者・ダブルケア)

## ①ケアラーの性別

ケアラーの性別は女性が多く、高齢者のケアラーで7割弱、障害者のケアラーで7割強、ダブルケアのケアラーで8割強となっている。

### 【性別】

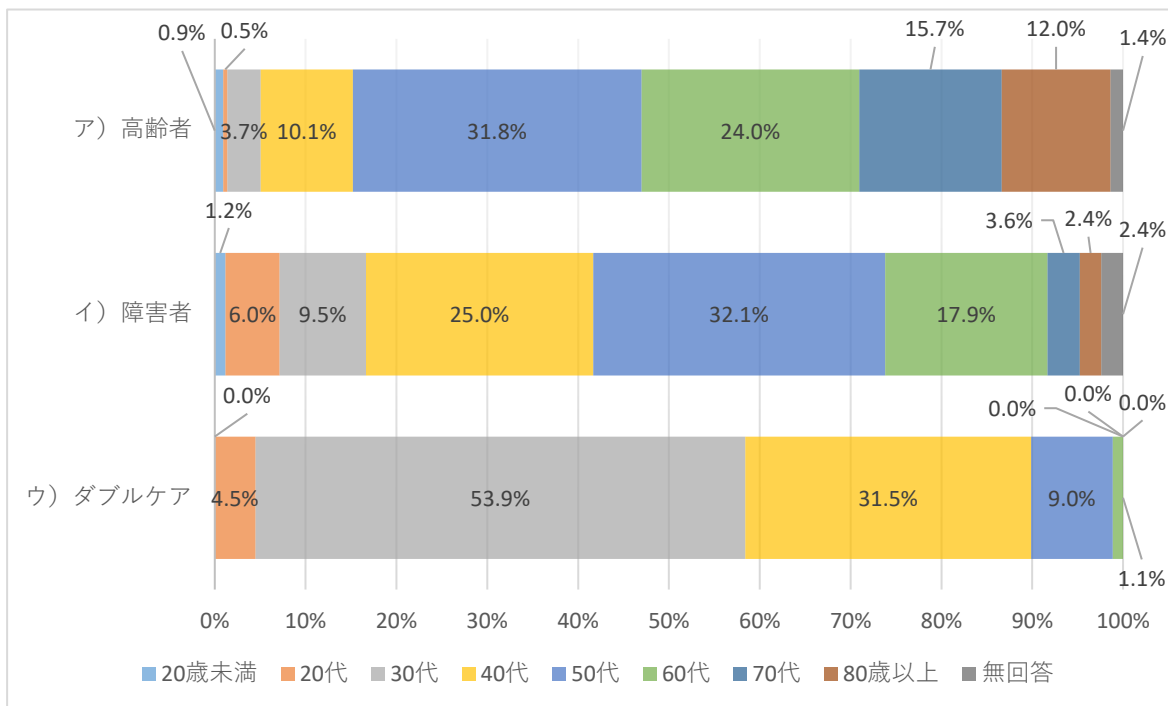


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	65	30.0%	15	17.9%	15	16.9%
女性	148	68.2%	62	73.8%	73	82.0%
その他	0	0.0%	2	2.4%	1	0.1%
無回答	4	1.8%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

## ②ケアラーの年齢

年齢は、高齢者のケアラーは50代から、障害者のケアラーは40代から、ダブルケアのケアラーは30代から割合が高くなっており、幅広い年代にわたっている。

【年齢】

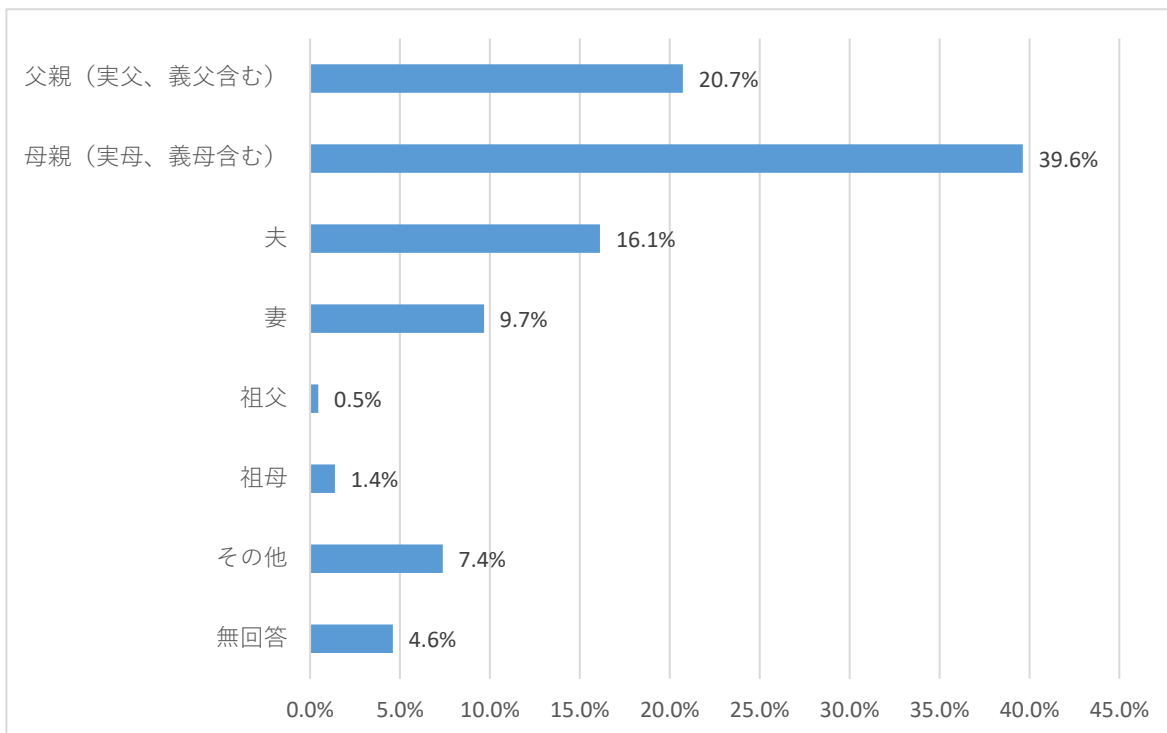


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20歳未満	2	0.9%	1	1.2%	0	0.0%
20代	1	0.5%	5	6.0%	4	4.5%
30代	8	3.7%	8	9.5%	48	53.9%
40代	22	10.1%	21	25.0%	28	31.5%
50代	69	31.8%	27	32.1%	8	9.0%
60代	52	24.0%	15	17.9%	1	1.1%
70代	34	15.7%	3	3.6%	0	0.0%
80歳以上	26	12.0%	2	2.4%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	2	2.4%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

### ③ケアの相手（ケアラーから見た被介護者との関係）

高齢者のケアラーのケアの相手（1人目）は、「母親」が39.6%で最も高く、次いで「父親」が20.7%、「夫」が16.1%、障害者のケアラー（1人目）は、「その他（子ども含む）」が69.0%で最も高く、次いで「母親」が13.1%、「父親」が6.0%、ダブルケアのケアラーは「自分の母親」が40.4%で最も高く、次いで「自分の父親」が19.1%、「配偶者の母親」が18.0%となっている。

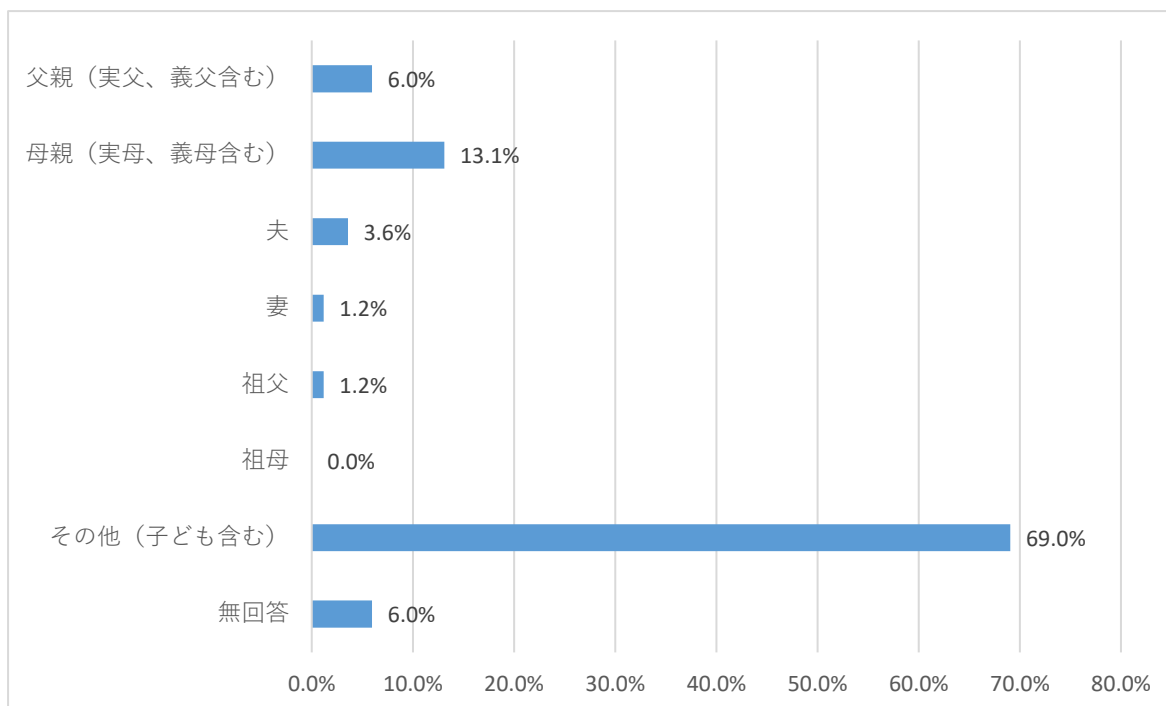
#### ア) 高齢者



※グラフについては、1人目のみ作成。

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
父親（実父、義父含む）	45	20.7%	14	6.5%	1	0.5%
母親（実母、義母含む）	86	39.6%	22	10.1%	3	1.4%
夫	35	16.1%	1	0.5%	0	0.0%
妻	21	9.7%	1	0.5%	1	0.5%
祖父	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	3	1.4%	1	0.5%	0	0.0%
その他	16	7.4%	7	3.2%	3	1.4%
無回答	10	4.6%	171	78.8%	209	96.3%
合計	217	100.0%	217	100.0%	217	100.0%

## イ) 障害者

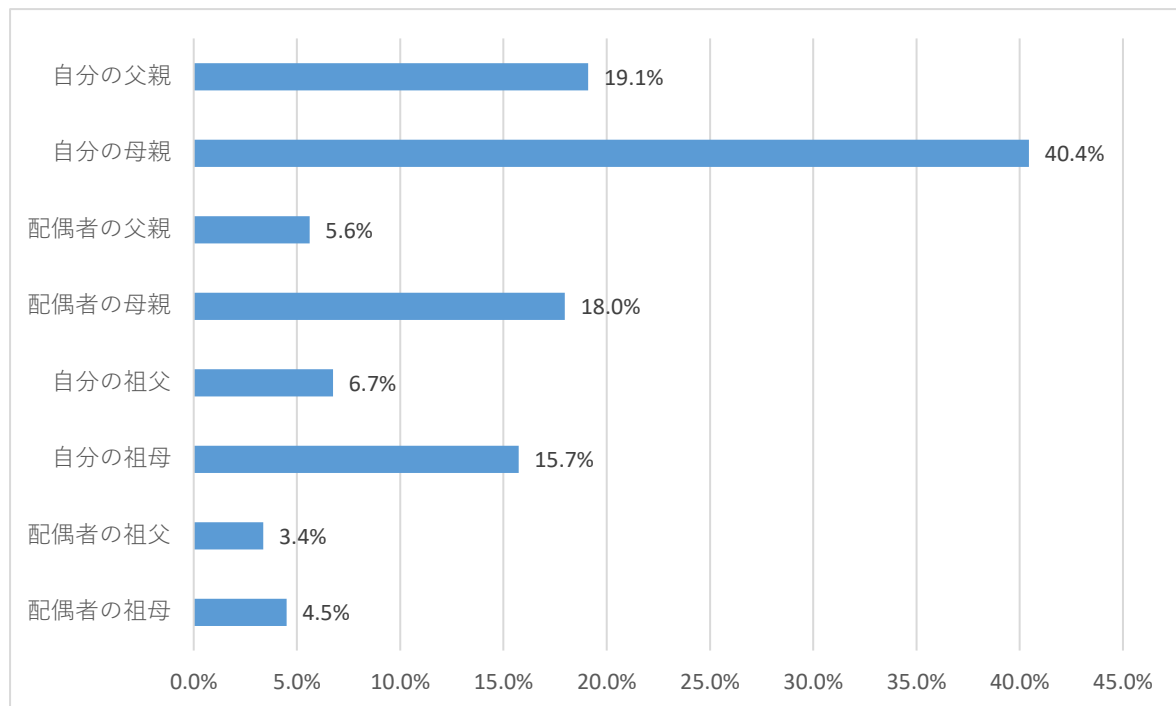


※グラフについては、1人目のみ作成。

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
父親 (実父、義父含む)	5	6.0%	1	1.2%	2	2.4%
母親 (実母、義母含む)	11	13.1%	3	3.6%	0	0.0%
夫	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
妻	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
祖父	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
祖母	0	0.0%	1	1.2%	1	1.2%
その他 (子ども含む)	58	69.0%	11	13.1%	4	4.8%
無回答	5	6.0%	68	81.0%	77	91.7%
合計	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%

ウ) ダブルケア

(複数回答)



※ダブルケアは、2人目、3人目としての設問を設定していない。

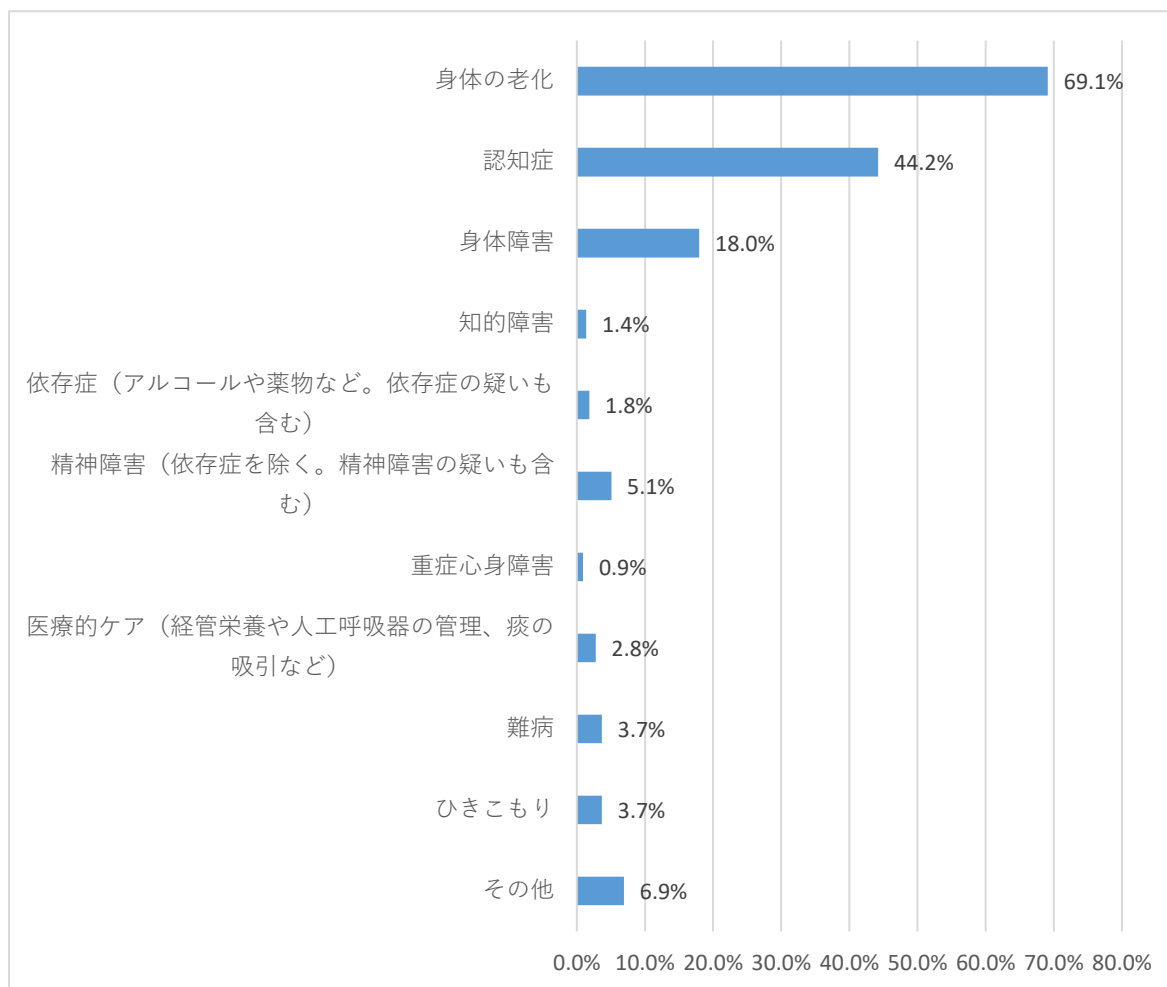
項目	回答数	割合
自らの父親	17	19.1%
自らの母親	36	40.4%
配偶者の父親	5	5.6%
配偶者の母親	16	18.0%
自らの祖父	6	6.7%
自らの祖母	14	15.7%
配偶者の祖父	3	3.4%
配偶者の祖母	4	4.5%

#### ④ケアしている相手の状況（複数回答）

被介護者の状況（1人目）については、高齢者のケアラーでは、「身体の老化」が69.1%で最も高く、次いで「認知症」が44.2%、「身体障害」が18.0%となっている。障害者のケアラーでは、「知的障害」が46.4%で最も高く、次いで「身体障害」が25.0%、「発達障害（知的障害を伴わない）」が21.4%となっている。

##### ア) 高齢者（1人目）

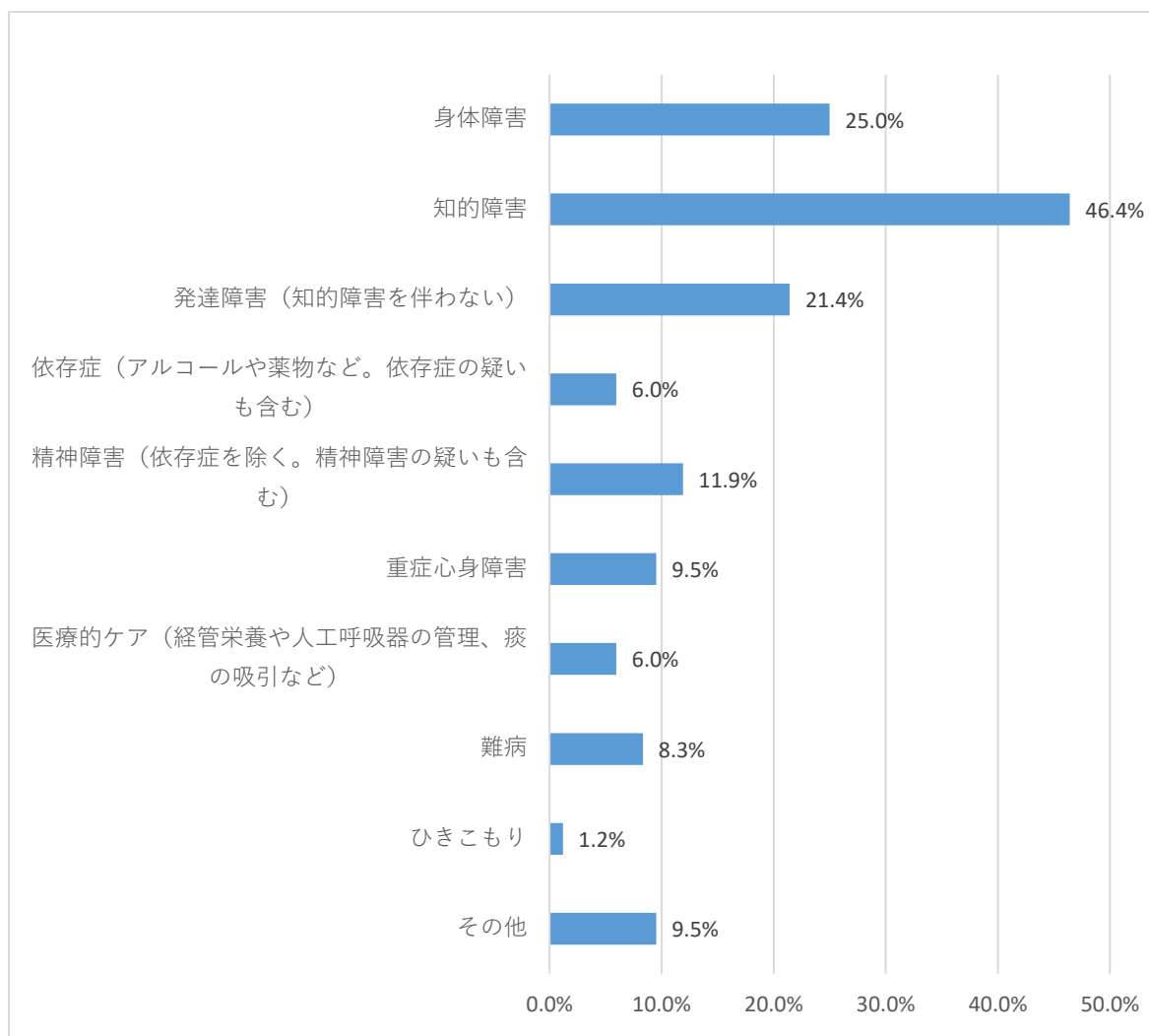
（複数回答）



※グラフについては、1人目のみ作成。

イ) 障害者 (1 人目)

(複数回答)



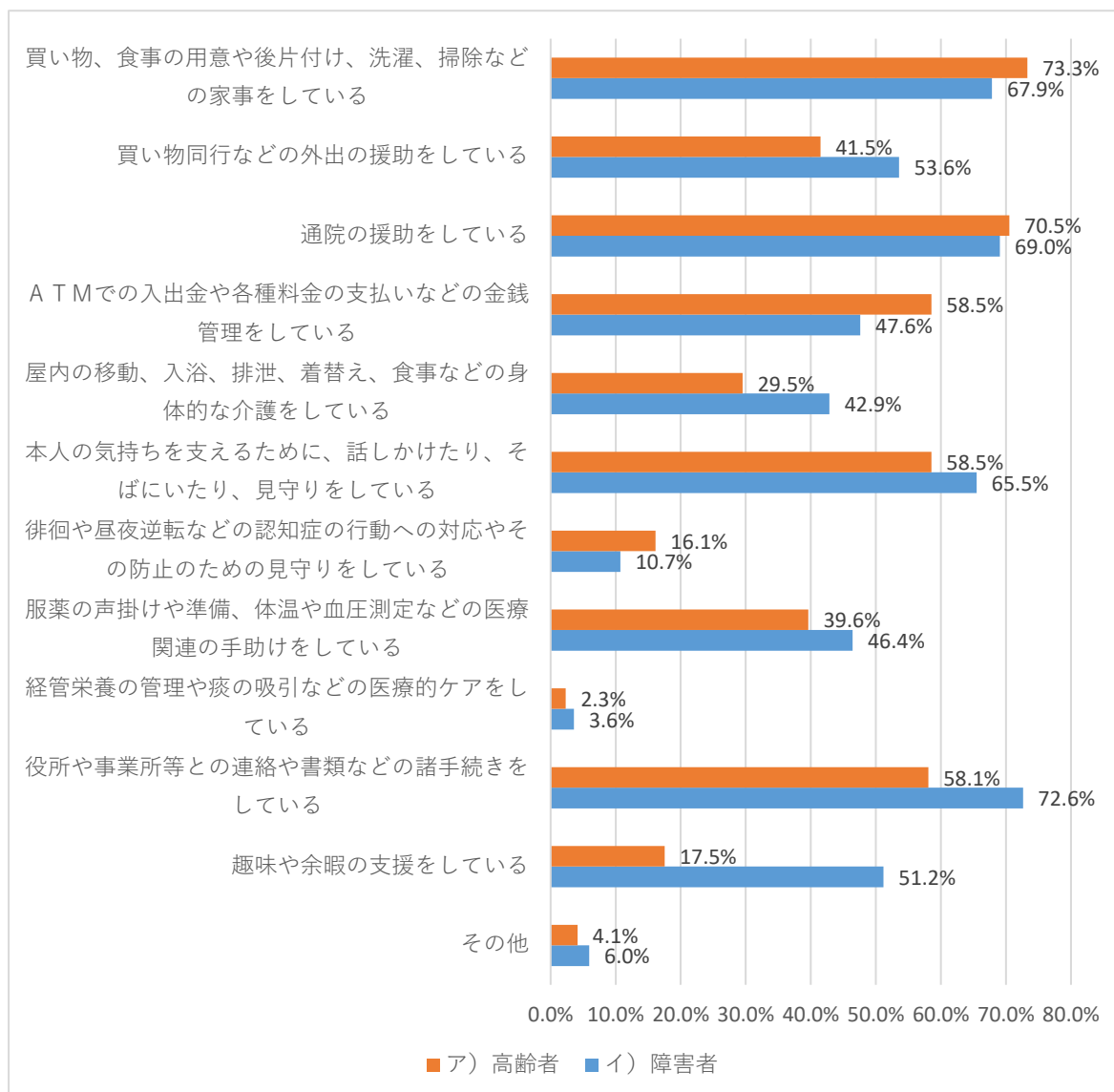
※グラフについては、1 人目のみ作成。

※ダブルケアについては、「被介護者の状況」は設問項目になし。

### ⑤ケアラーが行っているケアの内容

被介護者のケアの内容（1人目）については、高齢者では「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」、障害者では「役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている」が7割強で最も高くなっている。その他「通院の援助をしている」「ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている」「本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている」「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」など多岐にわたる。

（複数回答）

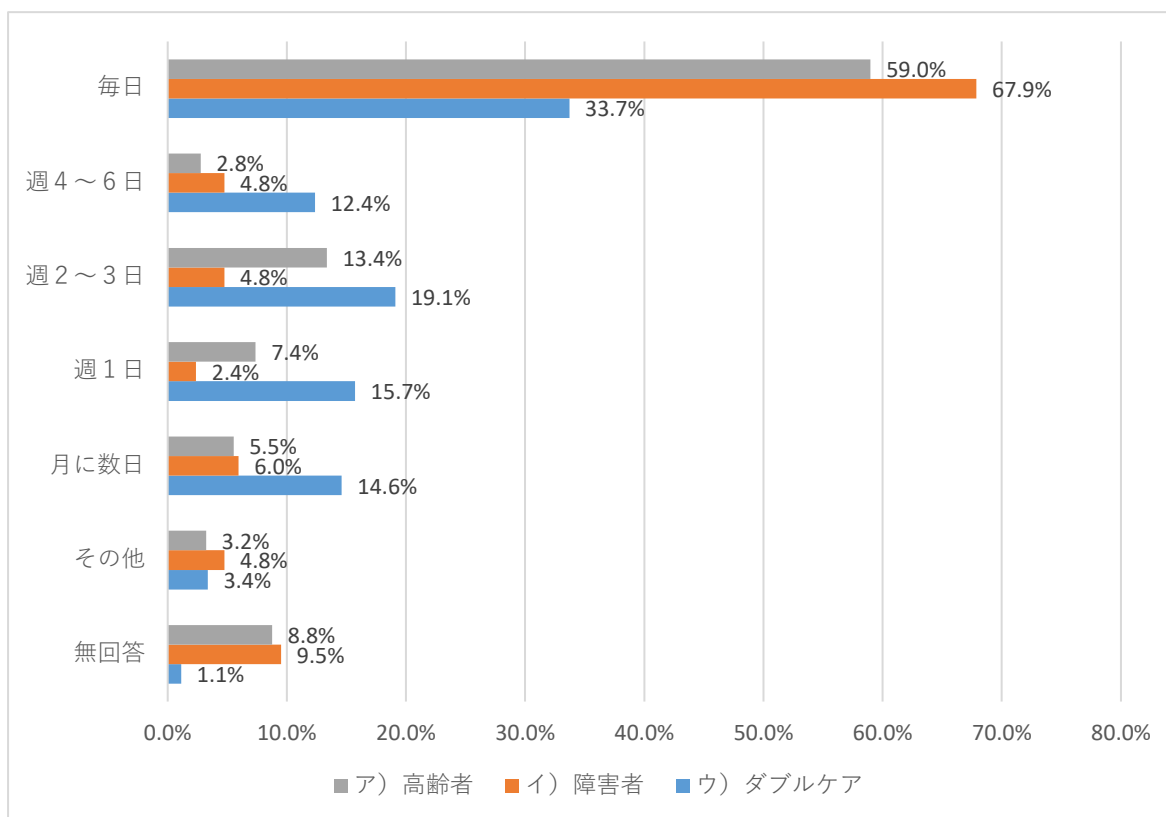


※グラフについては、1人目のみ作成。

※ダブルケアについては、「ケアの内容」は設問項目になし。

## ⑥ケアの頻度

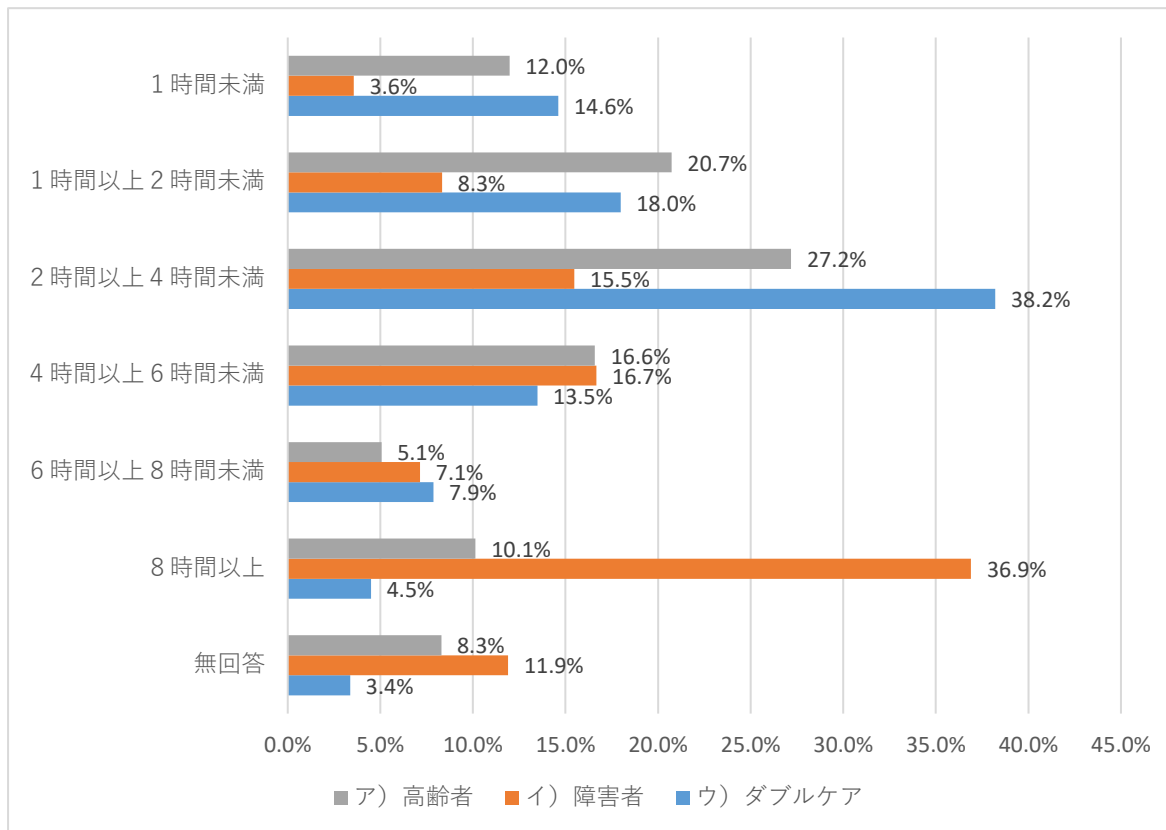
ケアの頻度は、「毎日」の場合が高齢者のケアラーでは約6割、障害者のケアラーでは7割弱、ダブルケアのケアラーでは3割強で最も高くなっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
毎日	128	59.0%	57	67.9%	30	33.7%
週4～6日	6	2.8%	4	4.8%	11	12.4%
週2～3日	29	13.4%	4	4.8%	17	19.1%
週1日	16	7.4%	2	2.4%	14	15.7%
月に数日	12	5.5%	5	6.0%	13	14.6%
その他	7	3.2%	4	4.8%	3	3.4%
無回答	19	8.8%	8	9.5%	1	1.1%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

### ⑦ 1日あたりのケアに費やす時間

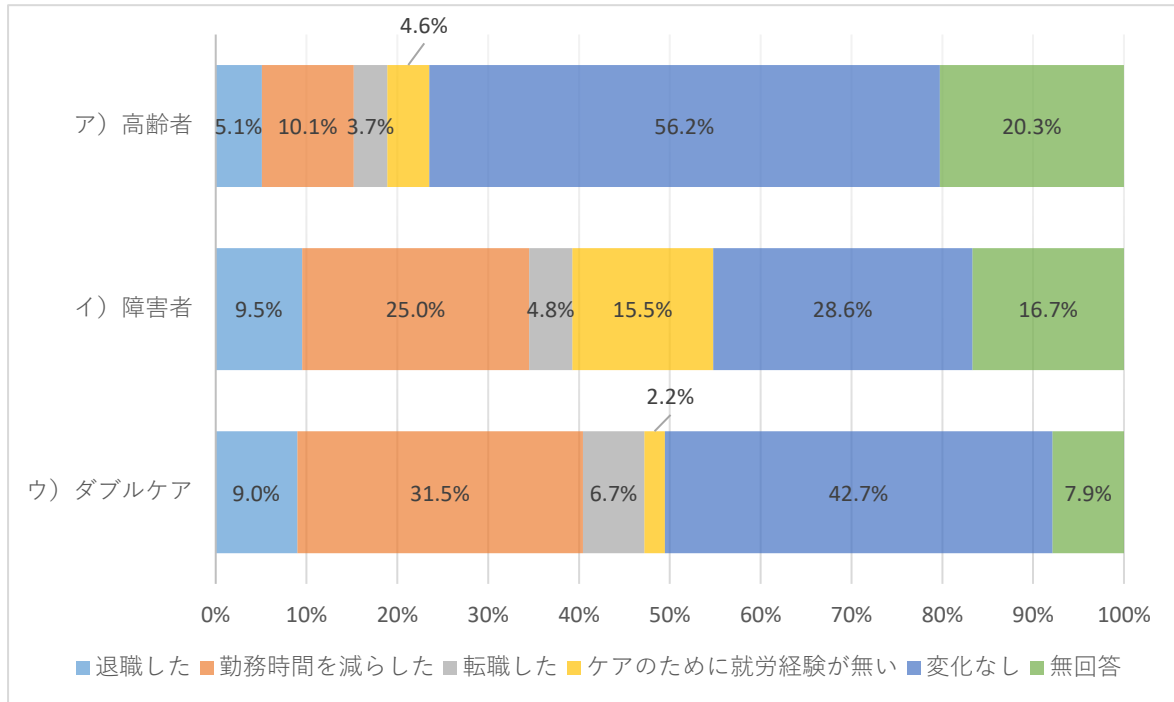
1日のケア時間については、高齢者のケアラーでは、「2 時間以上 4 時間未満」が3割弱、障害者のケアラーでは「8 時間以上」が4割弱、ダブルケアのケアラーでは「2 時間以上 4 時間未満」が4割弱と最も高くなっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 時間未満	26	12.0%	3	3.6%	13	14.6%
1 時間以上 2 時間未満	45	20.7%	7	8.3%	16	18.0%
2 時間以上 4 時間未満	59	27.2%	13	15.5%	34	38.2%
4 時間以上 6 時間未満	36	16.6%	14	16.7%	12	13.5%
6 時間以上 8 時間未満	11	5.1%	6	7.1%	7	7.9%
8 時間以上	22	10.1%	31	36.9%	4	4.5%
無回答	18	8.3%	10	11.9%	3	3.4%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

### ⑧ケアによる就労状況の変化

就労状況の変化は、「ケアのために退職した」「ケアのために勤務時間を減らした」「ケアのために転職した」を合わせると高齢者のケアラーでは 18.9%、障害者のケアラーでは 39.3%、ダブルケアのケアラーでは 47.2%となっており、ダブルケアのケアラーでは、より就労状況の変化が高い。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
退職した	11	5.1%	8	9.5%	8	9.0%
勤務時間を減らした	22	10.1%	21	25.0%	28	31.5%
転職した	8	3.7%	4	4.8%	6	6.7%
ケアのために就労経験が無い	10	4.6%	13	15.5%	2	2.2%
変化なし	122	56.2%	24	28.6%	38	42.7%
無回答	44	20.3%	14	16.7%	7	7.9%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

#### 【就労状況の変化】

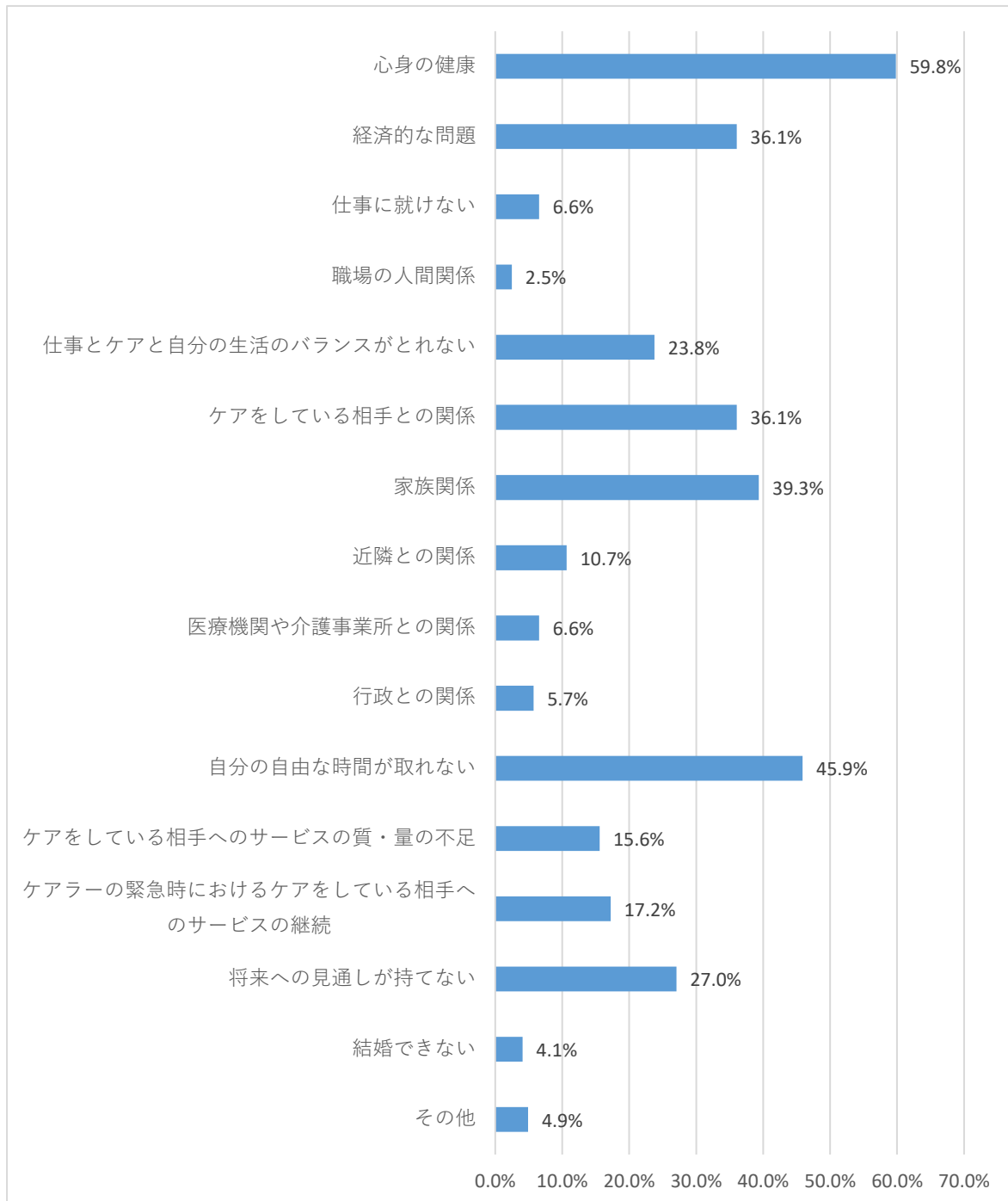
項目	ア) 高齢者	イ) 障害者	ウ) ダブルケア
	割合	割合	割合
退職した	5.1%	9.5%	9.0%
勤務時間を減らした	10.1%	25.0%	31.5%
転職した	3.7%	4.8%	6.7%
合計	18.9%	39.3%	47.2%

## ⑨ケアラーの生活や人生に関する悩み（複数回答）

### ア) 高齢者

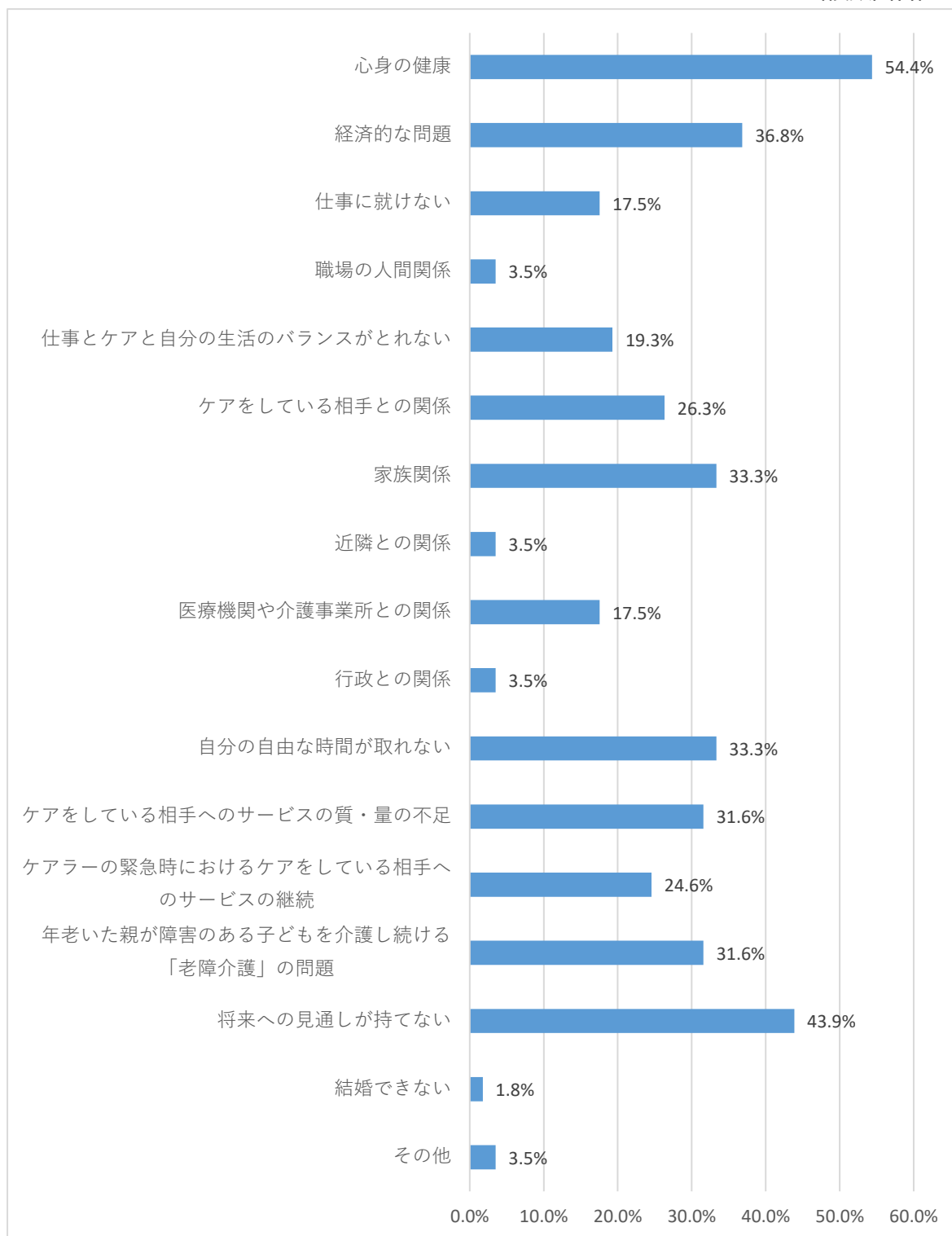
ケアラーの生活や人生に関する悩みについては、高齢者・障害者のケアラーとも、「心身の健康」が、ダブルケアのケアラーでは、「経済的な問題」が最も高くなっている。その他、「自分の自由な時間が取れない」、「将来の見通しが持てない」、「家族関係」などの割合も高い。

(複数回答)



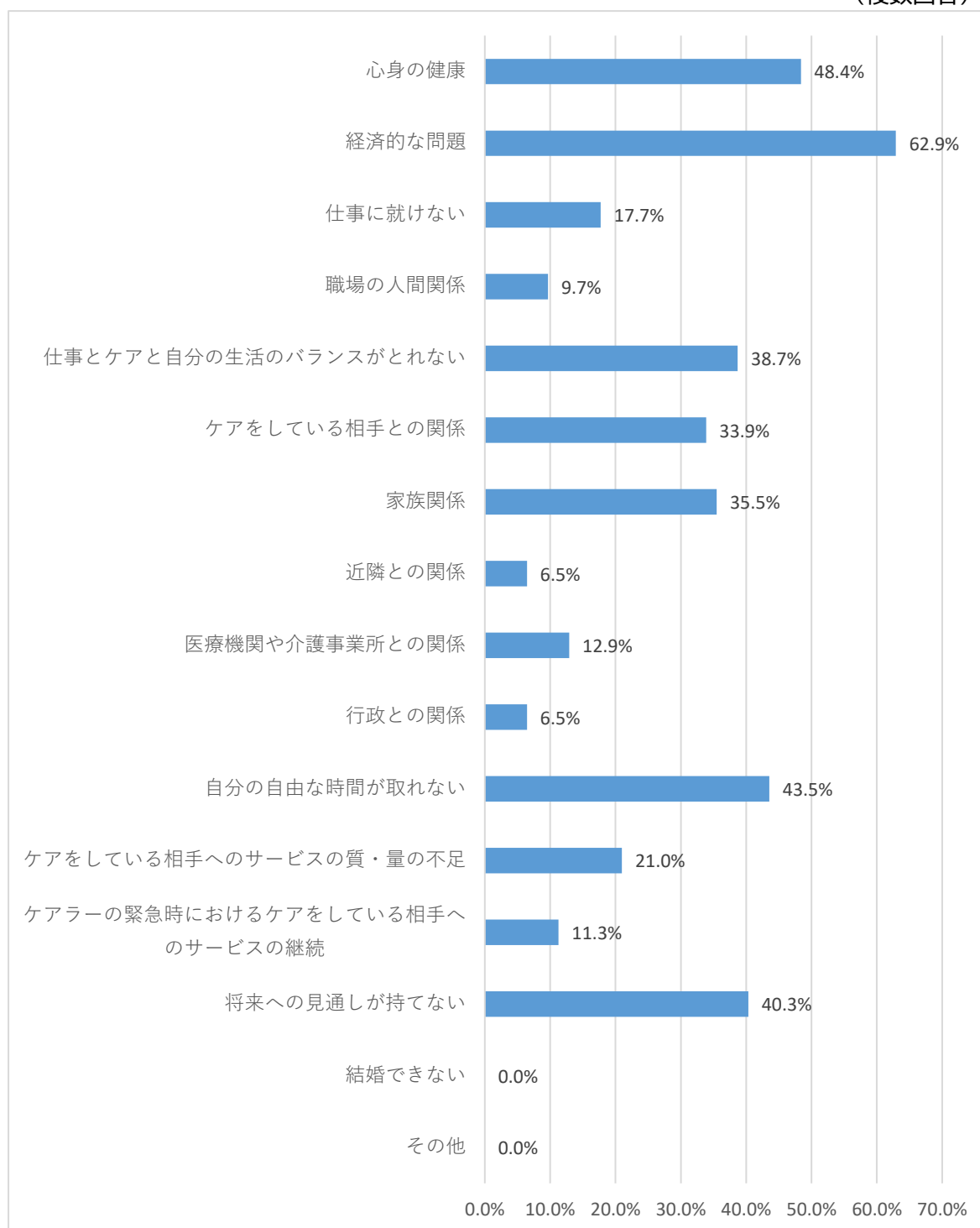
イ) 障害者

(複数回答)



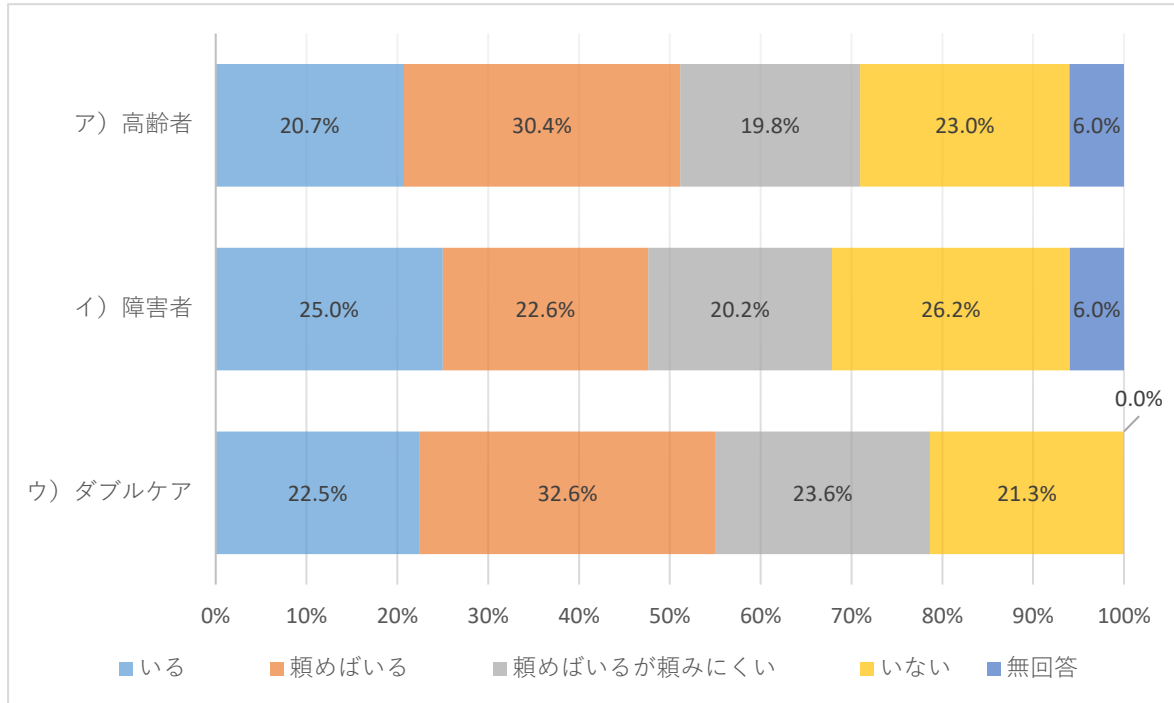
ウ) ダブルケア

(複数回答)



### ⑩代わりにケアを担う人の有無

代わりにケアを担う人の有無については、「いる」「頼めばいる」を合わせると、高齢者のケアラーでは5割強、障害者のケアラーでは5割弱、ダブルケアのケアラーでは6割弱となっている。



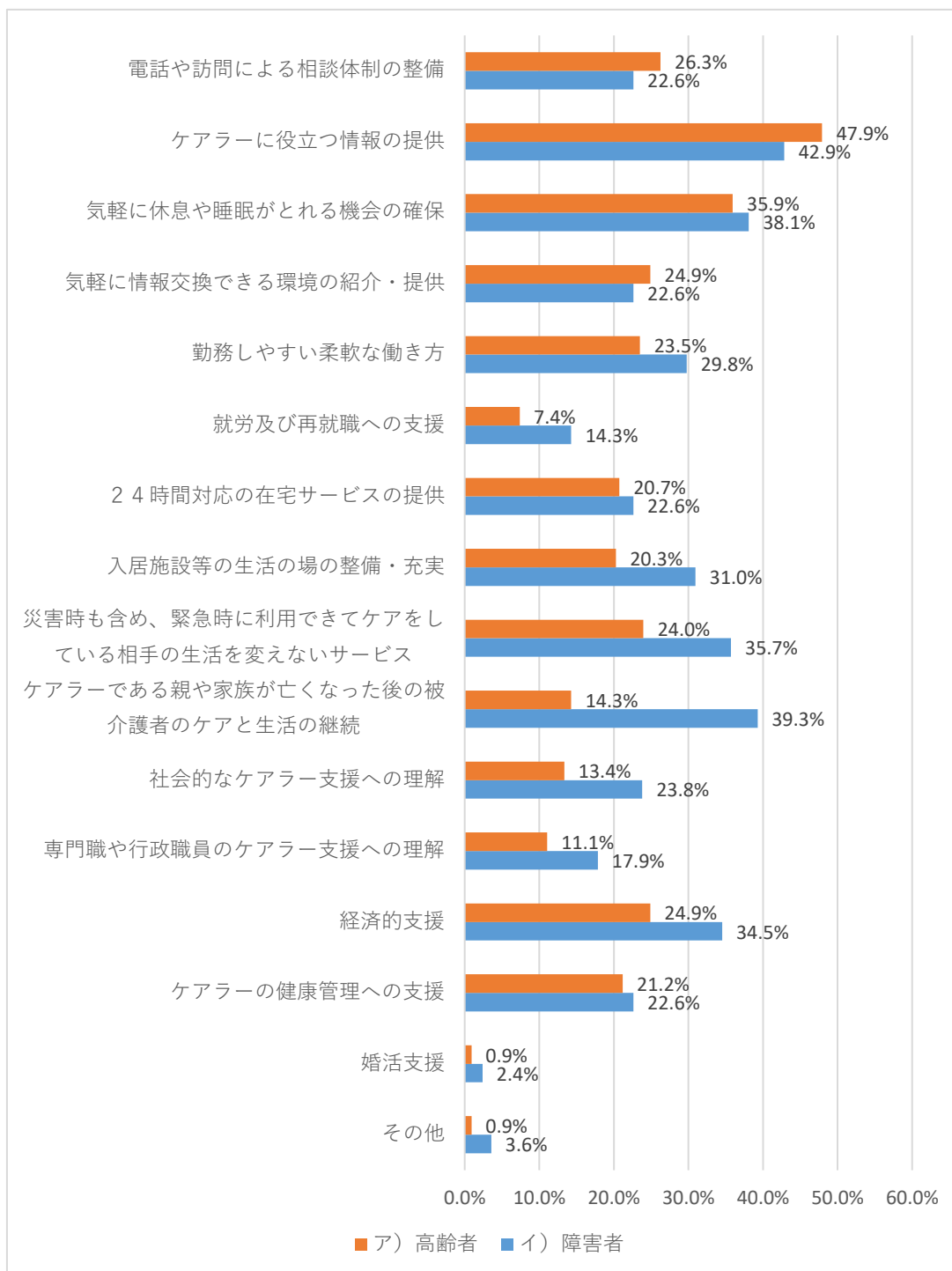
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
いる	45	20.7%	21	25.0%	20	22.5%
頼めばいる	66	30.4%	19	22.6%	29	32.6%
頼めばいるが頼みにくい	43	19.8%	17	20.2%	21	23.6%
いない	50	23.0%	22	26.2%	19	21.3%
無回答	13	6.0%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

## ⑪ケアラー自身に必要と思われる支援

### ア) 高齢者 ・ イ) 障害者

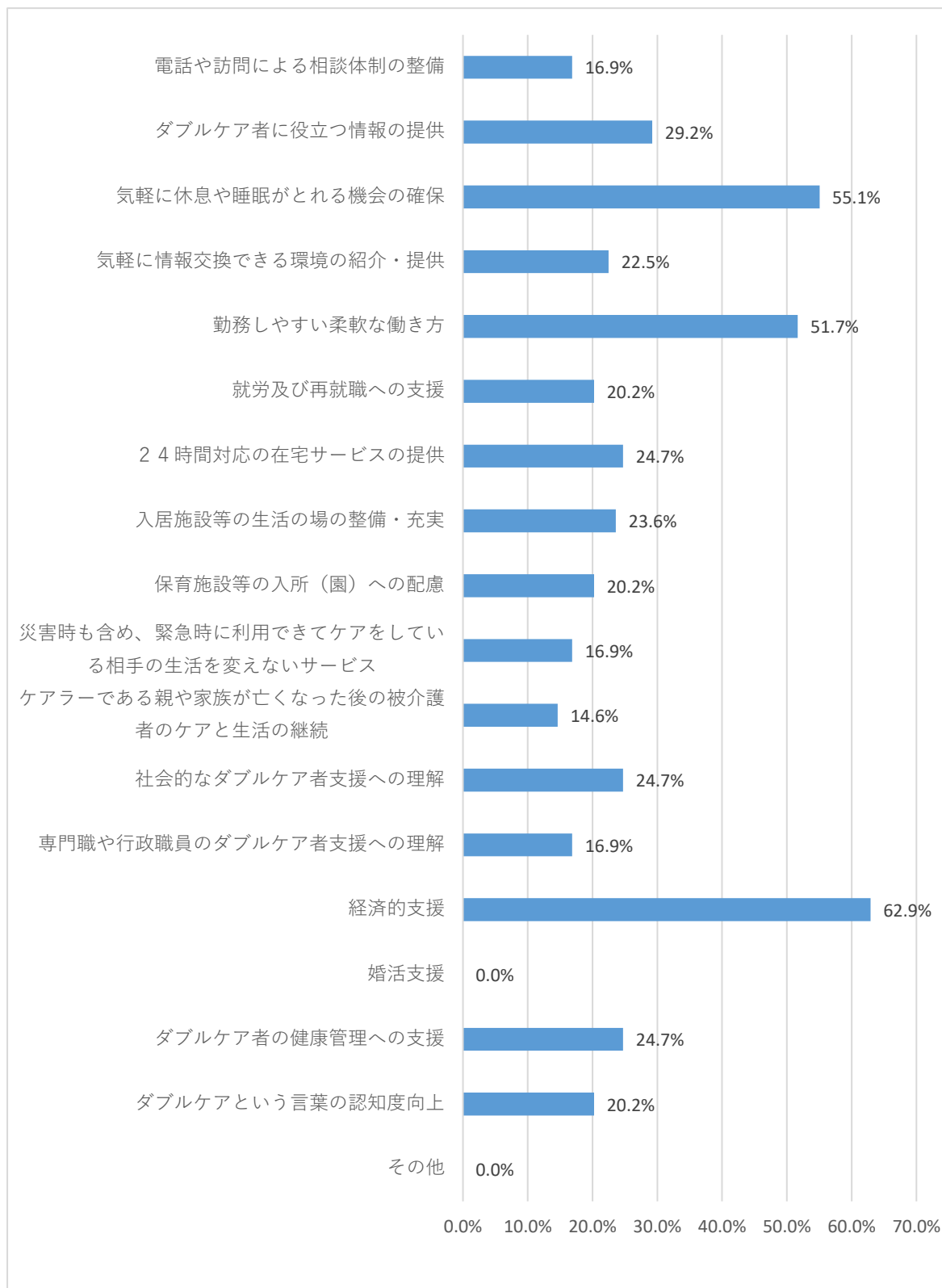
必要な支援については、高齢者・障害者のケアラーともに「ケアラーに役立つ情報の提供」が、ダブルケアのケアラーでは、「経済的支援」が最も高い。他にも「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」、「ケアラーに役立つ情報の提供」、「ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」など多岐にわたる。

(複数回答)



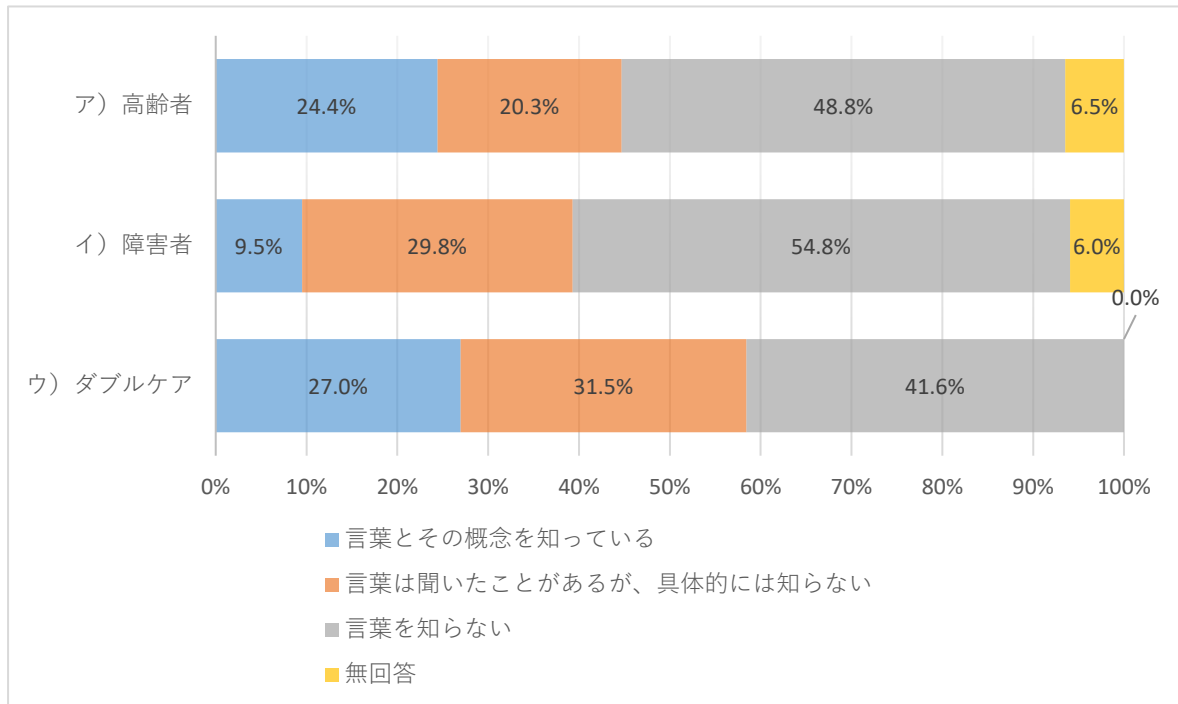
## ウ) ダブルケア

(複数回答)



## ⑫「ダブルケア」という言葉の認知度

「ダブルケア」という言葉の認知度については、「言葉を知らない」が高齢者のケアラーでは48.8%、障害者のケアラーでは54.8%、ダブルケアのケアラーでは41.6%となっており、「言葉とその概念を知っている」「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」よりも高くなっている。

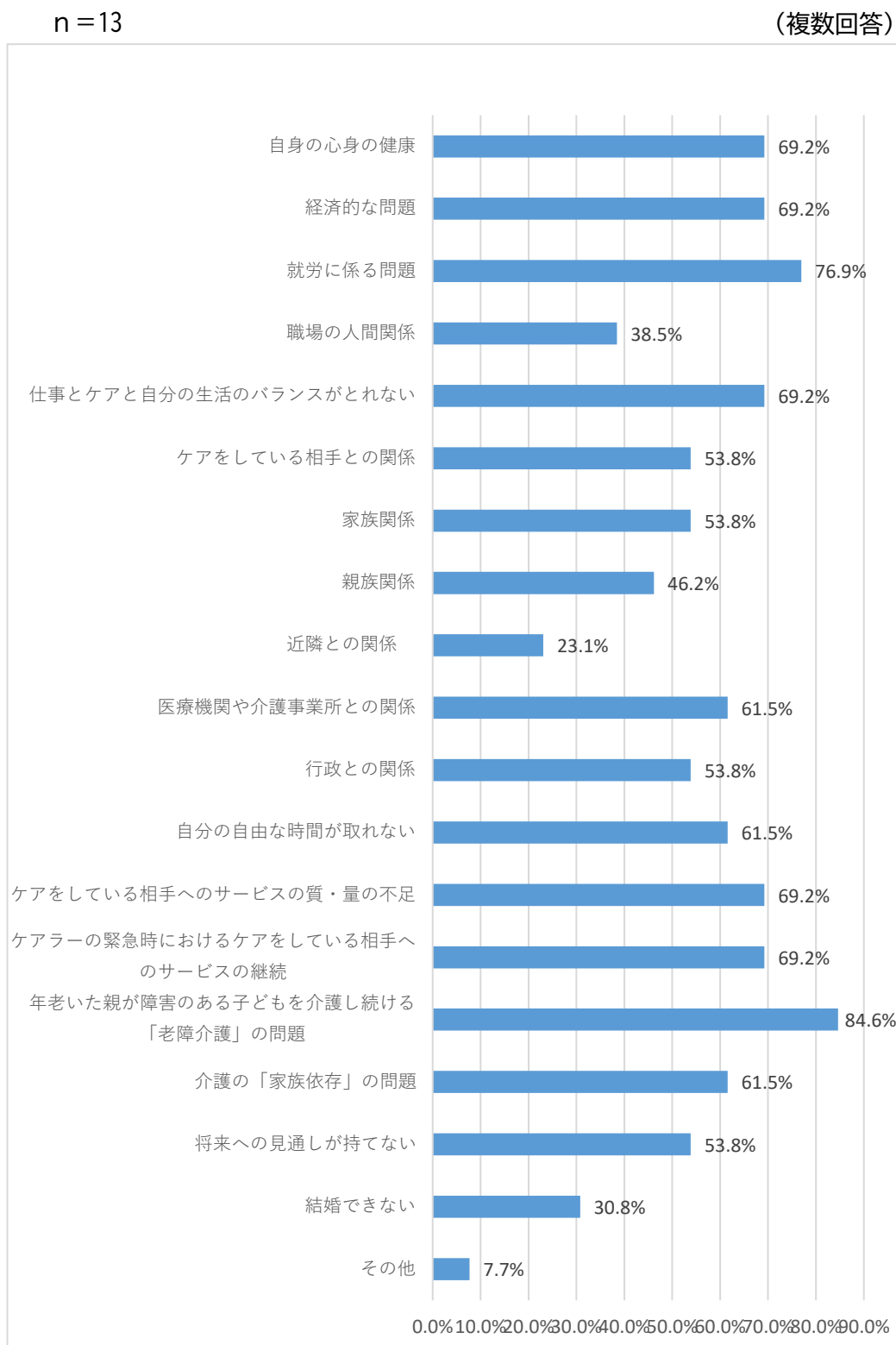


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者		ウ) ダブルケア	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
言葉とその概念を知っている	53	24.4%	8	9.5%	24	27.0%
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	44	20.3%	25	29.8%	28	31.5%
言葉を知らない	106	48.8%	46	54.8%	37	41.6%
無回答	14	6.5%	5	6.0%	0	0.0%
合計	217	100.0%	84	100.0%	89	100.0%

## 2. ケアラー当事者団体を対象としたケアラー実態調査

### ① 団体会員のケアラーとしての悩み（複数回答）

会員のケアラーとしての悩みについては、「年長いた親が障害のある子どもを介護し続ける「老障介護」の問題」が8割強、「就労に係る問題」が8割弱と高くなっている。

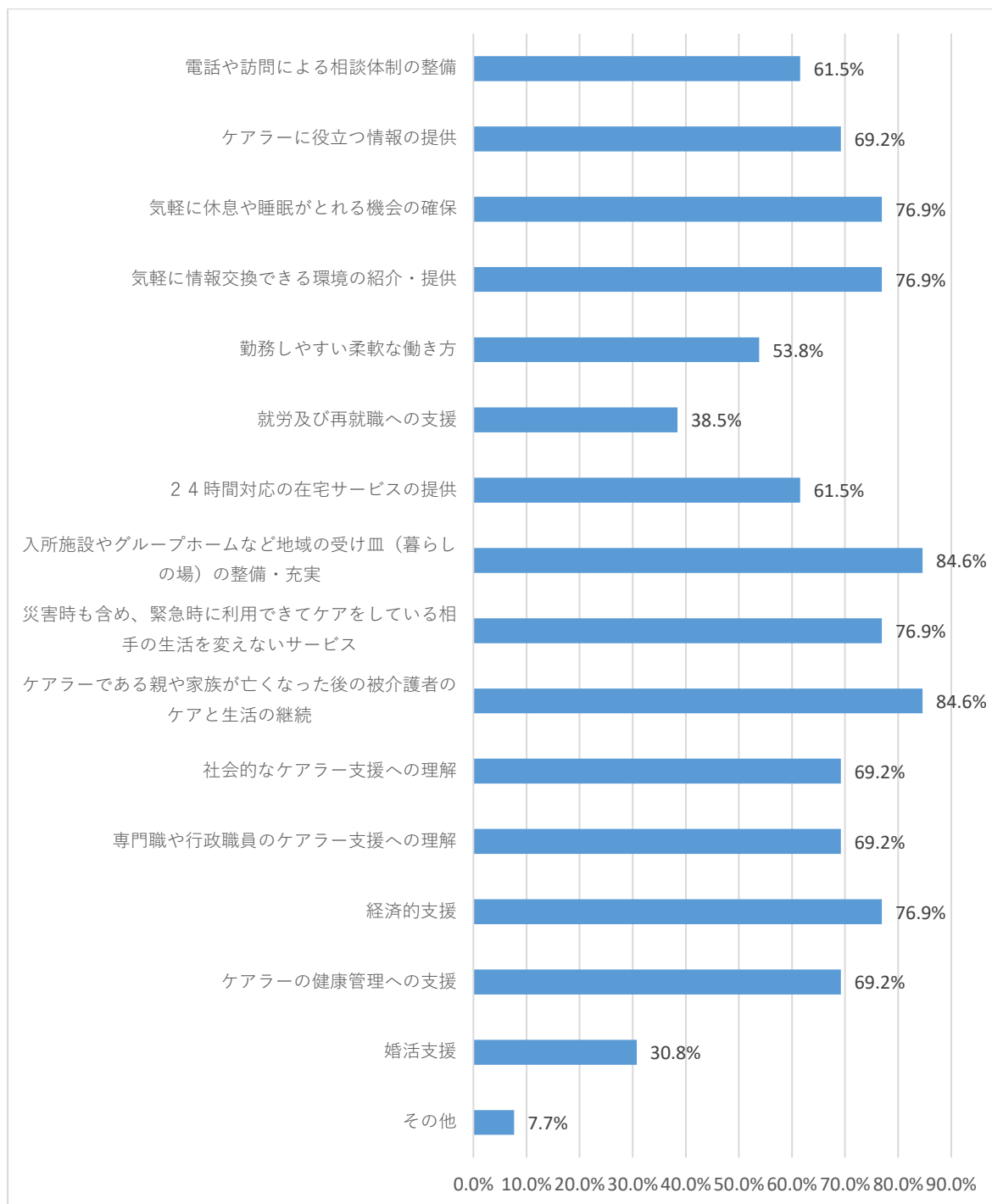


②ケアラーに求められる（必要と思われる）支援

ケアラーに求められる支援については、「入所施設やグループホームなど地域の受け皿(暮らしの場)の整備・充実」「ケアラーである親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」が8割強で最も多く、その他、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」「気軽に情報交換できる環境の紹介・提供」「災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス」「経済的支援」などの割合も高い。

n = 13

(複数回答)



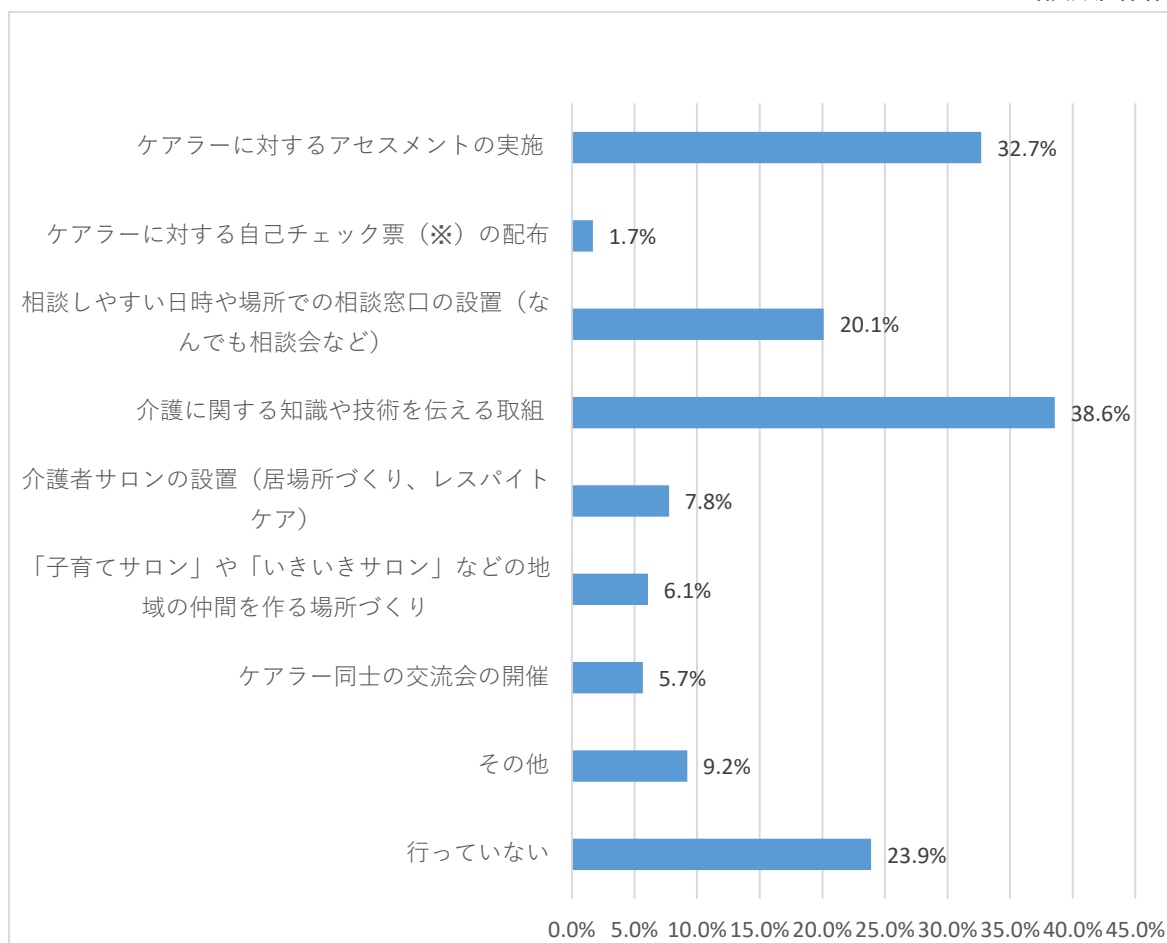
### 3. 支援機関を対象としたケアラー実態調査

#### ①ケアラー本人への直接的な支援（サービスにつなげること以外）

ケアが必要な人をサービスにつなげること以外に行っているケアラー本人への直接的な支援については、「介護に関する知識や技術を伝える取組」が4割弱で最も高く、その他「ケアラーに対するアセスメントの実施」、「相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置」などの割合も高い。

また「行っていない」が2割強となっている。

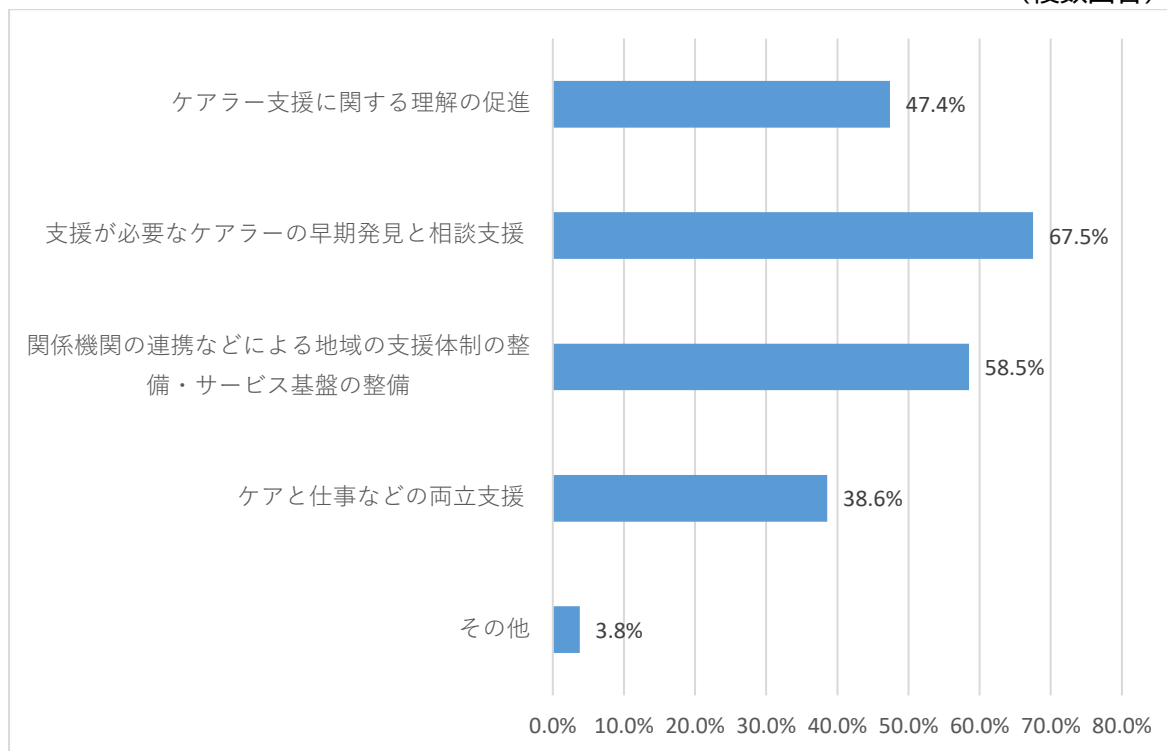
(複数回答)



② 「①のケアラー本人への直接的な支援」以外に、ケアラー支援として必要なこと

「①のケアラー本人への直接的な支援」以外で、ケアラー支援として必要なことについては、「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」が7割弱で最も高く、その他「ケアラー支援に関する理解の促進」、「関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備」などの割合も高い。

(複数回答)



\*無回答は、n=2

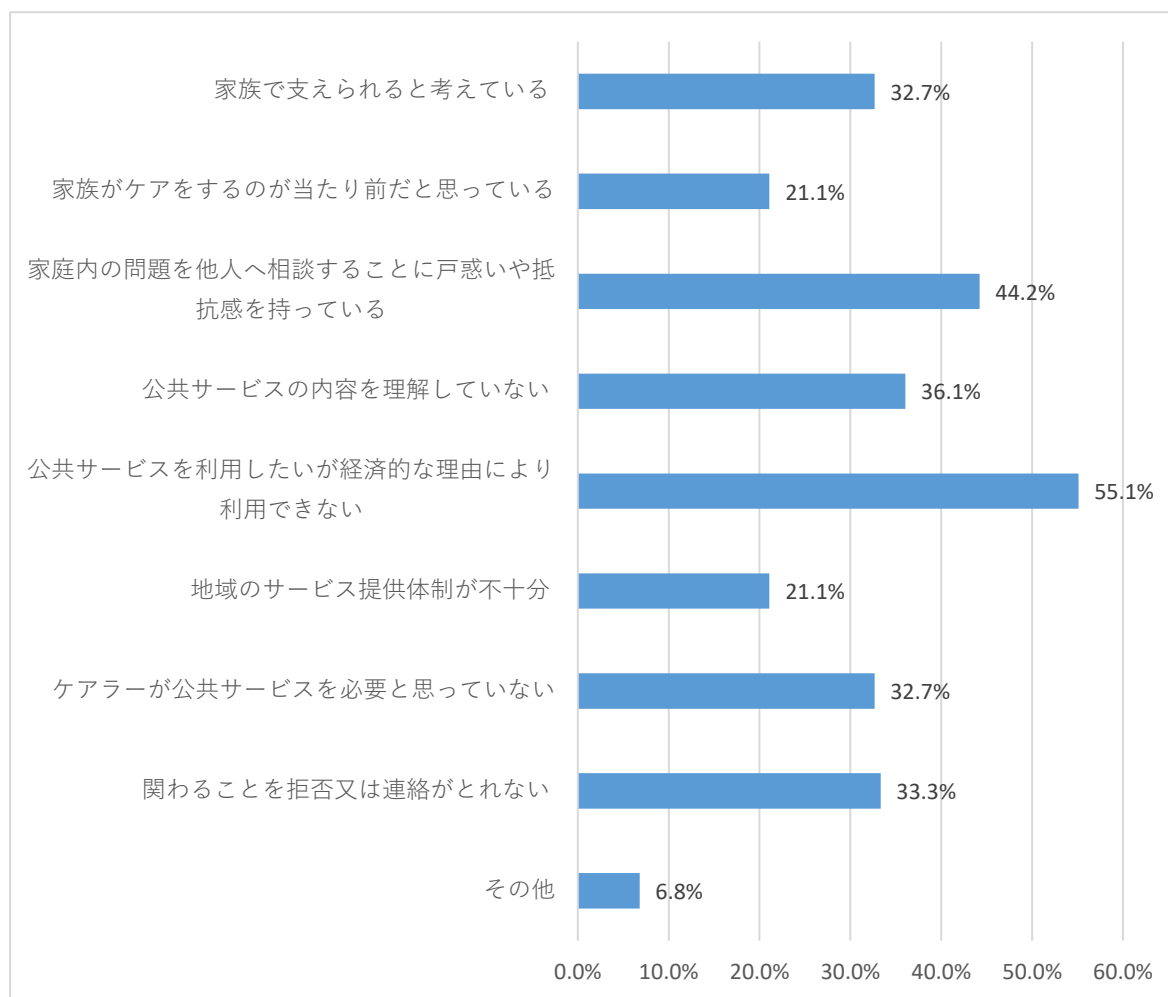
(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアラー支援に関する理解の促進	226	47.4%
支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援	322	67.5%
関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備	279	58.5%
ケアと仕事などの両立支援	184	38.6%
その他	18	3.8%
回答者数	477	—

### ③相談からサービス利用に至らなかった理由（ケアラーの理由）

公共サービスの利用に至らなかった事例について「ある」と回答した支援機関に、サービスの利用に至らなかった理由について聞いたところ、「公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない」が5割強で最も高く、その他「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」、「公的サービスの内容を理解していない」などの割合も高い。

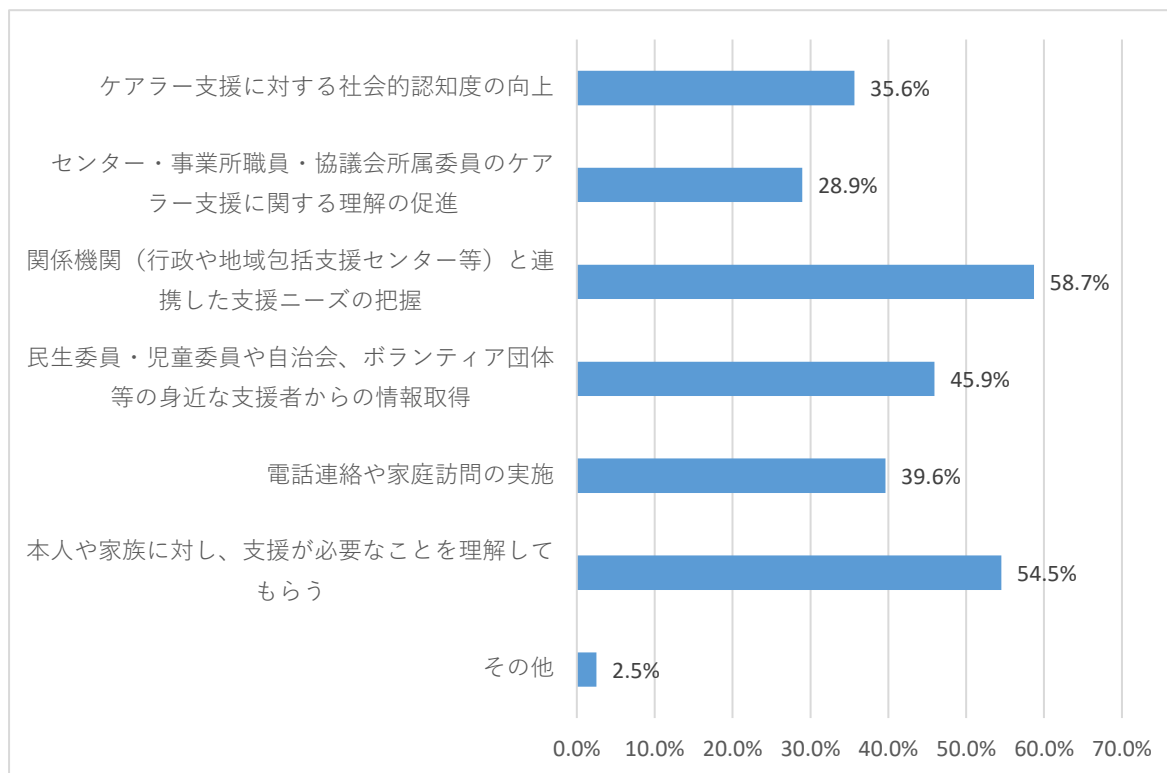
(複数回答)



#### ④支援につながりにくい家庭を支援に結びつけるために必要なこと

支援に結びつけるために必要なことについては、「関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握」が6割弱で最も高く、その他「本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう」、「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」などの割合も高い。

（複数回答）



（複数回答）

項目	回答数	割合
ケアラー支援に対する社会的認知度の向上	170	35.6%
センター・事業所職員・協議会所属委員のケアラー支援に関する理解の促進	138	28.9%
関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握	280	58.7%
民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得	219	45.9%
電話連絡や家庭訪問の実施	189	39.6%
本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう	260	54.5%
その他	12	2.5%
回答者数	477	—